

令和2年11月(2020年) No. 659

コロナ禍での

## 大阪アマチュア映像祭無事終了

会長 合原一夫

新型コロナウイルス感染症がまだ完全に治まっていない中、映像祭開催を実施するに当たり、何かと課題が多く、やるべきことが多過ぎて担当の世話役の方々には本当にご苦労をおかけしました。改めて感謝申し上げます。とくに中央図書館との折衝窓口にあられた岡本至弘さん、各種の書面づくりに何度もお骨折り頂いた進藤信男さん他の役員さんには、大半がボランティアとはいえ、大変ご苦労をおかけしました。

今回のコロナ禍での行事運営のあり方については多くの事を学びました。きっと今後、大いに役立つことでしょう。

今回は座席数300名のところ、90名に制約を受けました。従来ですと200名前後の入場者がありましたので、人数制限の為、事前申し込み制で抽選制としました。参加希望者146名、抽選で一般の方84名に入場証ハガキを出し、結果的に当日66名がご来場、78.6%にとどまりましたが、この穴埋めは連盟の役員で埋めました。結局90席定員で席を埋めたのは88席、2席は最後まで空席でした。一般来場者の中に2名の方が落選ハガキを持ってこられたが、欠席者が多かったことから入場していただきました。これらのデータは、今後の映像発表会開催の参考になると思います。

とにかく、ゆったりとした席の配置で「3密」「ソーシャルディスタンス」を守っての開催が、好評裡に無事終了したことをご報告いたします。



### 11月例会のお知らせ

- 第2例会；19日(第3木曜日)13時より 難波市民学習センターにて開催
- 通常例会；21日(第3土曜日)18時より。第4土曜日28日がOMCフェスティバルと重なりますので1週間繰り上げです。第2例会と1日おきの連続ですが、どちらもどうぞお越しください。

## コロナ禍のもとでの OMC

# 映像フェスティバル

## 60回の節目に相応しい成果を

今年11月28日(第4土曜日)開催の朝日生命ホールでの第60回 OMC 映像フェスティバルは、コロナ禍がまだ続いている中での開催となる。大阪アマチュア映像祭は、中央図書館との共催で申し込み制の人数制限であったが、今回は民間の会場である朝日生命ホールで、収容人数も多いので、申込制はとらず、通常通り来場者を受け入れることにしている。会場運営会社からも定員一杯の入場 OK のサインが出ている。60年の節目には相応しい200名の大台を期待したいところである。そのためには会員諸氏の観客動員力を貸してほしい。

### ■コロナ対策

当日はコロナ対策として観客の皆さんにマスク着用の呼びかけ(プログラムで事前呼びかけ)と確認、体温測定、人と人との距離(ソーシャルディスタンス)その他3密対策の主旨に添って運営していく必要があるため、OMC 会員諸氏の全面的な協力体制が必要となる。よろしくお願ひしたい。(会長 合原一夫)

### ■当日の開催運営にご協力を

観客動員のお願いのほか、当日受付、照明、映写、途中来場者の対応等に出品者の方は勿論、それ以外の方もできるだけお手伝いをお願いします。映写関係者は9時、その他の世話役さんは、10時集合でお願いします。11月例会日(21日)に役割分担表をお配りしますのでよろしくお願いします。(岡本)

### ■ 予 告；総会 1月第2例会日の21日13時より難波市民学習センターにて

### ■ 新年会は中止いたします。

コロナ禍のもと大勢での会食はまだ控えたいと思いますので、新年会は中止します。

### ■ 来年の撮影会は実施方向で検討したいと考えています。コロナ禍は治まっているとよいのですが

## 10月通常例会レポート

あっという間に10月、最近インフルエンザやコロナの流行がにわかに騒がれている中、GoTo トラベル、GoTo イート、GoTo・・・と世間は動き出している。我が OMC 例会は3・4月は中止したものの5月は誌上例会を開催し、6月以降順調に難波市民学習センターで開催、会員同士の作品発表、コミュニケーションの場があることに感謝したい。10月例会は参加者14名、作品9作品と皆様、精力的に作品を持参されています。まだまだ油断はできませんが、今秋コロナ対策を万全にしてカメラを担いで出歩きたい季節です。

### ■運営担当：司会 合原、書記 中川、映写 坪井、メモリー記録 江村、受付・照明 宮崎、森下の各氏

### ■出席者：江村、岡本、上総、紙本、合原、進藤、関、高瀬、坪井、中川、宮崎、森下、山本の14氏【堀氏は作品のみ】

### 【上映作品】(書記 中川氏)

#### 1、ゴミのゆくえ BD

上総秀隆 9分45秒

#### (作者コメント)

2019年10月に堺市のごみ処理焼却施設見学会に参加。最終処分場となる大阪湾上の埋め立て地に上陸。小さな船旅で生活環境保全の問題に思いを寄せた。

#### <会長コメント>

堺市の近代のごみ処理焼却施設の社会見学会の記録だが、順序良く編集してあるので大変よく理解できた。ゴミの減らす事を私たちは考えたいものと痛感する。



2、風(アニメ) BD  
関 剛 12分00秒

(作者コメント)

初のアニメ作品。田舎の若者が都会に憧れ、親父との喧嘩をきっかけに大都会に出ていく。しかし、そこは恐ろしいところだった。と云うストーリー。最初のアニメ制作で、人の歩き方がぎこちない。

<会長コメント>

昭和の8ミリ全盛時代のアニメ作品。この12分のアニメ作品を作るのにセルに何千枚の絵を描かれたことだろう。今では貴重な文化遺産だ。



3、辺地の池・シッキム DVD  
合原一夫 9分40秒

(作者コメント)

印度の最北部、中国、ブータン、バングラデシュ、ネパールに隣接する「シッキム」は、嚴重な軍政下におかれ、入国するには、印度のほかにシッキム州の特別許可が必要である。従って一般のツアーではなかなか行けないところだ。私は写真のツアーで州都ガントクへ訪れた。山また山の奥地の山岳都市だった。ヒマラヤの8千米級の巨峰が朝陽に映えて美しかった。軍政下の街とはいえ人々の表情は明るく、働く人々の生きいきとした姿が印象的だった(1998・平成10年撮影)。



4、楠の巨木は守り神 BD  
紙本 勝 9分50秒

(作者コメント)

楠の巨木が聳える神社仏閣などを訪ねてみると、多くが神木であり、地域の人々も守り神としては勿論、誇りでもあり、何百年もの昔から崇拝と保護をされてきた事が感じられるようになってきている。

<会長コメント>

大阪にも楠の巨木があちこち存在している事に新鮮な驚きを感じた。紙本さん、廃線紀行を卒業されて今年度は巨木紀行に取り組まれているようだ。いつまでもお元気で作品づくりを楽しんでください。



5、ひめじ良さ恋 BD  
江村一郎 8分00秒

(作者コメント)

ひめじ良さ恋まつりは毎年姫路お城まつりと同時開催しており、今年は11月7日前夜祭、8日本祭の予定でしたが20年の歴史で初めての中止となっています。

20年前当時「まちを元気にしたい」と高知で開催されている「よさこい祭り」をひとつの手段と考え、姫路商工会議所青年部が中心となって立ち上げたそうです。

<会長コメント>

今年は、祭り行事は皆中止。これは去年の記録。姫路にもお城まつりの際に、よさこいを踊っているような。しかしよさこいは本場のよさこいには及ばずといったところか。楽し気な雰囲気はあった。



6、和歌山の旅 BD  
高瀬辰雄 8分00秒

(作者コメント)

GoTo トラベルを利用したバスツアー。和歌山の道成寺、雑賀岬、天神崎、白崎海岸をめぐる。天気が良く、海、空ともに撮影には申し分なかったのですが、団体のバスツアーで撮影時間がなく、多少消化不良の作品です。デジカメの動画で、手持ちで撮りました。



## <会長コメント>

「和歌山の旅」をメインタイトルにしないで「GoTo トラベル・和歌山」とでもした方がよかったかも。内容は良くまとまっていてGoTo トラベルの雰囲気が伝わってきた。

### 7、平岡八幡宮 宮司のお話と花の天井 BD

中川良三 9分40秒

#### (作者コメント)

9月下旬、久しぶりに京都を訪れた、もう何か月ぶり？今日は平岡八幡宮で特別拝観「花の天井」があるので行ってみた。四条から高雄行きのバスで平岡八幡宮に、高雄方面にはまだ行ったことがないので、時間の感覚がなかったが、割と近い感じがした。拝観料を払いしばらくすると、説明に入られたが、宮司の話し方は早口で個性的、しかし残念ながら本殿内は撮影禁止だったので、「花の天井」と境内で紹介された「三役相撲」「靱猿」等をYouTube から検索し編集してみた。



### 8、祈りの時 BD

堀 皓二 6分40秒

#### (作者コメント)

高槻市にある、神峯山寺という寺の落慶法要の行事を作品にまとめました。初めて見る荘厳な内容に圧倒されました。

#### <会長コメント>

なかなか迫力のあるカットとBGMの処理で引き込まれたが、だんだん描写が平凡になってきたのが惜しい。



### 9、スロベニア紀行 BD

山本正夢 7分10秒

#### (作者コメント)

前回中国のカルスト地形「桂林」を編集しましたので、今回はカルスト地形の語源となったスロベニアのカルスト地方を編集しました。



### 10、オシドリの住む町 BD

進藤信男 14分34秒

10月になり思い浮かべたのは、季節の便りのように訪れる渡り鳥たちだ。しかし、コロナ禍に揺さぶられている毎日の生活ではどんな行動をとれば良いのだろうか。

10年あまり前になった2007年頃には各地で鳥インフルエンザの脅威が伝えられ、よく通っていた豊岡市などでは野鳥公園の鳥が隔離される状態だった、今回の例会作品に登場してくれた、オシドリを鳥取・日野町に定着させた池岡さんや森田さんの話を思い出し、コロナ禍とインフルエンザの流行を危惧する今の自分たちとダブって来るのだ。

はじめてアーカイブラシキ作品を提出することになったが、今年はオシドリの好物「ドングリ」を集めて久しぶりに送ってやろうと話しているところだ。こんなことも、ビデオを楽しむ一つのパターンだろうか。

#### 【メモ】

今回の作品は、私にとって41作目で「SDワイド」かと思ったが、ちょうど半年前の2006年7月3日作品目「大台ヶ原山 石楠花の咲くころ」からハイビジョン作品を提出していた。

OMC入会初作品が2001年2月「SD4:3」「武奈ヶ岳 スノーハイク」、初ワイド作品が2003年11月13日作品目「京都・三尾の秋」、それぞれ3年間隔であった。ここまでは、よくついてこられたとは思いますが、技術の遷移の早いビデオ趣味、ハイビジョンになって14年が過ぎている。そろそろ4K作品も視野に入ってきたことを意識させられている。

